

報道関係者各位

エフセキュア、家庭用スマートデバイスの認識調査レポートを発表

～ IT の知識を持つ 30 代の既婚者たちがコネクテッドホーム化を牽引～

2020 年 8 月 4 日
エフセキュア株式会社

先進的サイバー・セキュリティ・テクノロジーのプロバイダーである F-Secure (本社: フィンランド・ヘルシンキ、CEO: Samu Konttinen、日本法人: 東京都港区、以下、エフセキュア) は、日本を含む 11 ヶ国で 4,400 人の個人ユーザを対象におこなった家庭用スマートデバイスに関する認識調査の結果を発表しました。この調査は各国で 25 歳以上 400 人ずつを対象に、本年 4 月に実施されたものです。

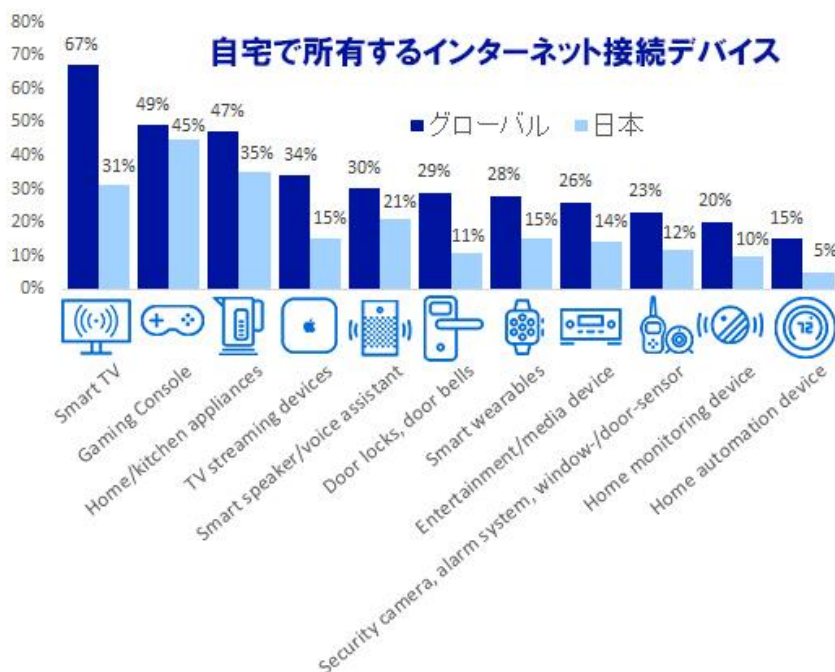
本レポートによると、コネクテッドホームは新しいタイプのアーリーアダプター (製品／サービスの初期導入層) に牽引され、コンシューマの生活の奥深くまで浸透してきています。ネット接続可能なスマート TV やその他のエンターテインメントデバイスがスマートホーム革命の第一波をもたらした一方、音声起動のホームオートメーションデバイスは、インターネットに接続されたテクノロジーを使用して住宅を近代化する、IT に関する知識を持ち子育て中の世代でますます人気が高まっています。

レポート『The Connected Home's Next Wave』は、11 ヶ国での調査データに基づいて、世界のスマートホーム市場の成熟化を取り上げています。レポートの主な調査結果は以下の通りです。

- 家庭で所有するインターネット接続デバイスの平均台数では、日本は調査対象 11 ヶ国中最下位の 3.92 台。最も多かったのはブラジルの 6.15 台。
- スマート TV はコネクテッドホームの「キラーアプリ」と言える存在であり、3 分の 2 の家庭にあたる 67% がインターネットに接続するテレビを所有している。(日本単独では 31%)
- コネクテッドホーム革命の第一波をもたらしたのはエンターテインメントであった。スマート TV の登場により、インターネット接続のゲーム機が主流となり、49% の家庭がインターネット接続のゲーム機を (日本単独では 45%)、34% がストリーミングデバイスを (同 15%)、26% がスマートサウンドシステム／ホームシアターを所有している (同 14%)。
- Amazon Echo や Google Home に代表されるスマートスピーカーがコネクテッドホームの第二波をリードしている。こうした 6 年前には存在していなかったデバイスは、現在 30% の家庭に導入されている (日本単独では 21%)。
- コンシューマは、コネクテッドデバイスが生活の中でより多くの役割を果たすことを望んでいる。スマートロック、セキュリティシステム、ホームオートメーションのような機能的デバイス (functional devices) は、現在所有している回答者より、将来的な購入意思を持つ回答者の方が多くデバイスである。
- デバイスの家庭への浸透はアーリーアダプターによって牽引されている。こうした自称「テクノロジー意識の高い」人々のうち 81% がスマート TV を、49% がスマートスピーカー／音声アシスタントデバイスを、47% がストリーミングデバイスを、47% がウェアラブルデバイスを、そして 26% がホームモニタリングデバイスを既に所有している。
- コネクテッドホームに大きな期待を寄せている人ほど、リスクの存在を認識している。回答者の 60% がスマートホームデバイスがハッキングされることを懸念しており、アーリーアダプターに絞るとその割合は 75% にまで上昇する。



数年にわたって実施されたエフセキュアの調査によると、今日のアーリーアダプター像は、「最新のハードウェアに自分のお金や時間を注ぐ、分厚い眼鏡をかけた独身男性」という、いわゆるステレオタイプ化された「テクノロジーオタク」には当てはまらないことがわかっています。アーリーアダプターはミレニアル世代（1980～90 年代に生まれた、デジタルネイティブの最初の世代）にあたる大卒の 30 代既婚者であり、家庭に複数の小さい子供がいて、自分たちの新居をあらゆる種類のコネクテッドデバイスで満たしたいという情熱を持っているという傾向が浮かび上がってきました。アーリーアダプターたちは便利なデバイスを発見し、自分の見識やノウハウを家族と共有することを楽しんでいきます。



エフセキュアのコンシューマセキュリティ担当のエグゼクティブバイスプレジデントである Kristian Jarnefelt (クリスチャン・ヤーネフェルト) は、今回の調査について次のように述べています。

「アーリーアダプターや彼らから影響を受ける人々は、コネクテッドデバイスを利用して家庭を自動化するメリットを享受したいと考えていますが、反面、そのために自分のセキュリティとプライバシーを犠牲にしてもいいとは思っていません。人々は、コネクテッドホームの安全性を確保するためのサポートを求めています。全てのデバイスが 1 つのアプリで保護されている安全なホームネットワークを持つことは、安心感だけのためではありません。時間を有効に使い、常にリスクを計算しなくても新しいデバイスを導入する自由があるということなのです。」

スマートホームデバイスのメーカーがオンラインセキュリティやプライバシー保護のために十分な策を講じていないと考える回答者は、調査対象者全体の 80%、アーリーアダプターに限定すると 79%となっていました。これは、調査対象者のうち 76% (日本単独では 84%) が「自分がスマートホームデバイスに関連する犯罪の被害者になる可能性がある」と感じている数字とほぼ一致しています。

今回のリサーチ結果 (英語) は以下のページでご覧いただけます。

<https://blog.f-secure.com/ja/devices-in-your-connected-home/>

* F-Secure Survey, April 2020, 11 countries (USA, Japan, UK, France, Germany, the Netherlands, Italy, Sweden, Brazil, Mexico, South Africa), 400 respondents per country = 4400 respondents (+25years)

エフセキュアについて

エフセキュアほど現実世界のサイバー脅威についての知見を持つ企業は市場に存在しません。数百名にのぼる業界で最も優れたセキュリティコンサルタント、何百万台ものデバイスに搭載された数多くの受賞歴を誇るソフトウェア、進化し続ける革新的なセキュリティ対策に関する AI テクノロジー、そして「検知と対応」。これらの橋渡しをするのがエフセキュアです。当社は、大手銀行機関、航空会社、そして世界中の多くのエンタープライズから、「世界で最も強力な脅威に打ち勝つ」という私たちのコミットメントに対する信頼を勝ち取っています。グローバルなトップクラスのチャネルパートナー、200 社以上のサービスプロバイダーにより構成されるネットワークと共にエンタープライズクラスのサイバーセキュリティを提供すること、それがエフセキュアの使命です。

エフセキュアは本社をフィンランド・ヘルシンキに、日本法人であるエフセキュア株式会社を東京都港区に置いています。また、NASDAQ ヘルシンキに上場しています。詳細は <https://www.f-secure.com/en/welcome> (英語) および https://www.f-secure.com/ja_JP/ (日本語) をご覧ください。また、Twitter @FSECUREBLOG でも情報の配信をおこなっています。

※以下、メディア関係者限定の特記情報です。個人の SNS 等での情報公開はご遠慮ください。

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

エフセキュア株式会社

広報部 秦 和哉

TEL: 03-4578-7745 (直通) japan-pr@f-secure.com